

## 23. 2020年度 中学入試問題 出題のねらい・講評と難易度

### ● 2020年度 中学入試 第1回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	91%	94%	大きく分けて4つのねらいがあった。 1 語彙の習得 2 文章の論理関係把握 3 正確な読解 4 全体把握 特に、文章と図を結び付けることが出来ているかどうかを試した問7は新しい傾向の問題であった。	問4、問8といった全文を把握した上で答えなければならない問題、言い換えれば傍線部の近くに解答の明確な根拠のない問題は、正答率が思いのほか低かった。本文全体の論理構造を意識する読解を心がけて欲しい。 問7の問題は新傾向であったが、正確に読めば、「ターゲット」も丸で囲うべきなのは明白であるにもかかわらず、ほとんどの者が見逃してしまっていた。読み飛ばしたり、設問をしっかりと読んで問いに答えるという基本がおろそかになっているように感じた。
	b	69%	79%		
	c	95%	98%		
	d	83%	89%		
	問2	44%	52%		
	問3	73%	73%		
	問4	31%	38%		
	問5	80%	85%		
	問6	78%	81%		
	問7 (1)	16%	19%		
	(2)	16%	20%		
	(3)	85%	91%		
	問8 (1)	35%	38%		
(2)	53%	59%			
2	問1 ジョバンニ	89%	94%	問1は、文章を全体として把握するような問題として出題をした。 問2、3、5、7、8、10は 心情把握の問題として出題した。 問4、9は場面把握の問題として出題した。 問6は言葉の問題として出題した。	全体的によくできていたと思う。比較的読みやすい小説であったのもできていたことの要因の一つであろう。問3、4の正答率が低かったように見えるが、根拠として位置的に遠い、または総括的な読み方をしなければならぬことが原因かと感じた。しかしそれでも5～6割解けていたということは概ね良い読み方をしてくれていたのだと感じた。
	カバネルラ	76%	83%		
	問2	95%	98%		
	問3	58%	65%		
	問4	56%	63%		
	問5	78%	85%		
	問6	69%	76%		
	問7	68%	76%		
	問8	60%	67%		
	問9	83%	88%		
問10	88%	94%			
3	問1	41%	52%	同一テーマの近現代詩と短歌、俳句を並べ、そのテーマに関連する漢字と語句の設問を加えた融合型の設問で、ここ数年同傾向の出題が続いている。詩をはじめとする韻文が苦手な受験生が多い中でも、基本的な学習がきちんとできている生徒を応援したい。と同時に、受験勉強であっても、ふだん親しむことの少ない作品に触れる機会をできるだけ多く持ってほしい。以上の願いから、基本事項を中心とした出題とした。	問1は問2と関連した出題で、詩の主題を四字熟語で表すもの。問2が理解できていることが前提となっているだけに差がついた問題だった。問3の表現技法、問4の文法は基本問題だが、問3のように複数の作品に共通するものを選ぶ方式ではやや難度が下がったようだ。問7の部首問題も頻出。部首はその漢字の意味を表すと考え、「木」に関係ないものをさがすか、もう一方のパーツが部首になるかを考えると正解できる。
	問2	75%	80%		
	問3	61%	71%		
	問4	73%	78%		
	問5	97%	98%		
	問6	80%	85%		
	問7	69%	72%		
	問8 ①	99%	99%		
	②	82%	89%		
③	80%	88%			

● 2020年度 中学入試 第1回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	53%	65%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、特殊算の基本問題、数の理論、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1、2は計算問題、問3～5は特殊算の基本問題、問6は余りを求める問題、問7、8は図形の問題を出題した。	基本問題を中心に出題した。問6、問8の得点率が低かった。問6は104を2020回かけたときの余りの規則性を見つけてことができなかった受験生が多く、問8は立体図形の底面積と側面積の関係を見出すことができない受験生が多かった。
	問2	93%	97%		
	問3	95%	99%		
	問4	57%	72%		
	問5	75%	87%		
	問6	26%	37%		
	問7	71%	82%		
	問8	42%	58%		
2	問1	95%	98%	旅人算の基本から標準的な問題。問1～3ともダイアグラムを利用して解く問題である。また、問3は太郎君と兄の速さの比を利用してダイアグラムを正確にかくことができるかがポイントである。	典型的な問題ということもあり、問1、2はダイアグラムを利用することができており、得点率が高かった。問3もダイアグラムを正確に書ければ解答できる問題であったが、得点率が下がってしまった。
	問2	78%	90%		
	問3	39%	52%		
3	問1	33%	51%	三角錐の4隅から三角錐を4つ切り取ってできる立体に関する問題。展開図から立体を想像しなければならないため、空間認知が必要な問題である。問1はもとの三角錐との体積比を求める問題、問2は立体をさらに2つに分け、その体積比を求める問題、問3は問2の2つの立体の表面積の比を求める問題であった。	立体自体は難しいものではないが、展開図から考えなければならぬため、全体的に得点率が下がってしまった。例年通り空間図形の苦手意識が強い受験生が多かったように感じる。少なくとも問1は正解してほしい問題であるが、問1の得点率も低く、問1の立体を利用するため、問2、3の得点率も下がってしまった。
	問2	21%	34%		
	問3	7%	12%		
4	問1	22%	29%	平面図形の面積比を求める問題。問1は2本の補助線を引き、2つの三角形の面積比を求める問題である。問2は問1の補助線の考え方を利用して、三角形と四角形の内積比を求める問題である。	問1は2本の補助線を引き、引いた後にできる5つの三角形が相似であることを利用できるかがポイント。問2は問1の考え方を利用するため、さらに得点率が下がってしまった。
	問2	3%	5%		
5	問1	20%	27%	サイコロを25個のマス目上を動かし、マス目に触れたサイコロの面に書かれている数字を考える問題。問1は25個のマス目に書かれている数字の合計が最も小さくなる場合を求める問題。問2は条件を満たすようにサイコロを動かしたときに移動した回数が最も少なくなる場合を考える問題。	問1は2マスおきに和が7になることに気付くことができるかがポイント。このことに気がつかず様々なパターンを考えると時間だけが過ぎてしまうであろう。問2は条件を満たすような移動方法を正確に見出せるかがポイント。空間認知も必要になるので、空間図形の苦手意識が強い生徒が多いこともあり得点率を下げってしまった。
	問2	25%	32%		

● 2020年度 中学入試 第1回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	45%	47%	訪日外国人観光客が日本経済に与える影響について、時事的な内容を含めて出題した。	「コト消費」は合格者の約6割が解答できた。時事的な内容について理解・関心を持った受験生が集まっている。問2の正答率が低い。浄水場は湾岸の埋め立て地には不適であると判断して解答を導いてほしい。
	問2	16%	17%		
	問3	34%	36%		
	問4	51%	55%		
	問5	49%	53%		
	問6	98%	99%		
	問7	80%	87%		
	問8	47%	57%		
2	問1	82%	86%	古代、中世、近世、現代の4分野から出題した。人名とそれに関する出来事だけでなく、人名や語句の時代区分もしっかりと意識できているかを設問の中に含めた。	全体的に高い正答率となった。可能な限り、全問正解に近い得点はしておきたい。
	問2	85%	89%		
	問3 (1)	91%	96%		
	(2)	93%	95%		
	問4	83%	91%		
	問5	78%	83%		
	問6	47%	51%		
	問7	86%	89%		
	問8	92%	94%		
問9	55%	61%			
3	問1 1	5%	6%	例年通り、学習した知識を社会的事象に絡めて関心をもつことを求めた設問とした。会話文は世界史的知識をもたずとも、日頃日本の政治や経済に関心があれば関連して理解できる内容であった。	全体的に期待した正答率を達成した。図表を用いた設問は、読み解く力が求められ勘違いによる誤答が散見された。基本的な知識を暗記だけでなく歴史、背景などにも関心を持つ学習姿勢が得点と相関していた。
	2	90%	94%		
	3	67%	76%		
	問2	59%	68%		
	問3	82%	90%		
	問4 1	65%	70%		
	2	62%	71%		
	問5	60%	69%		

● 2020年度 中学入試 第1回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	73%	79%	<p>テーマは動物の分類について。次の問に関する理解を問いた。</p> <p>問1：外来種について 問2：鳥類の特徴について 問3：両生類とは虫類について 問4：昆虫の完全変態について 問5：標識再補法の計算問題 問6：動物の分類について</p> <p>問1～4、6は知識問題。どこまで細かく知識を把握しているか確認させるために出題した。</p> <p>問5は高校生物で出題される問題。文章読解と計算の能力を確かめるために出題した。</p>	<p>問1、問3-1、3、問6の知識問題についてはよく学習しており、得点率も高かった。</p> <p>問2は鳥類の細かい内容につき、得意不得意で差が出たと考えられる。</p> <p>問3-2、4は難しい内容ではないが、言葉を書かせるということで、戸惑った生徒が多かったのではないかと考えられる。</p> <p>問5の標識再補法は文章読解・計算がよくできており、正解率も高かった。</p>
	問2	51%	56%		
	問3 1	97%	98%		
	2	45%	46%		
	3	82%	88%		
	4	41%	48%		
	問4	57%	64%		
	問5	77%	89%		
問6	90%	96%			
2	問1	80%	92%	<p>標高による空気温度変化、飽和水蒸気量、湿度に関する問題である。与えられた問題文と表から解答に結びつく必要な情報を読み取り、正しく計算することができるかを見る出題である。</p>	<p>湿度100%の空気とそうでない空気温度変化が異なることを考えて、標高を考慮することが多くの受験生でできていた。問2までよくできていたが、問3で表の読み取りが必要になると正答率が大きく下がってしまった。表を読み取れる力を身につけてもらいたい。</p>
	問2	76%	88%		
	問3	47%	63%		
	問4	57%	64%		
	問5	63%	76%		
3	問1	86%	94%	<p>酸と塩基との反応の量的関係を理解しているかどうかをみている。基本的な知識が身についているか、実験結果の表から必要な情報を読み取り、比例計算を用いて量的な計算が出来るかどうかを問うた。</p>	<p>全体としては、基本的な知識・計算力を問う問題である。問1～5までは正答率も高く、この部分を落としている場合は合格は難しいと考えられる。</p> <p>問6はやや正答率が落ちたが、予想以上にできており受験者層のレベルが高いと思われる。</p> <p>各問は条件を読み取れば、簡単な比例計算であり、過去問対策がされていれば合格点がとれる問題である。</p>
	問2	86%	93%		
	問3	90%	96%		
	問4	86%	94%		
	問5	85%	92%		
	問6	63%	74%		
4	問1 a-b	92%	95%	<p>回路内の電磁石とダイオードについての問題。問1では実験結果の表を見て、必要な情報が読み取れるかをみている。問2以降は回路図の特徴を理解し、磁力の向きと大きさを問うた。計算問題はない。</p>	<p>問1は、正答率からも、ほとんどの生徒が表の読み取りができていたことがわかる。問2以降では正解の選択肢を「すべて」選ぶ問題の問2、問4、が正答率が下がった。問1の正答率から電磁石の特性は理解できているので、回路図中の電流の向きをしっかりと理解できているかどうかを受験生の間で差がついたと考えられる。</p>
	c-d	87%	90%		
	e-f	89%	93%		
	問2	52%	63%		
	問3	65%	71%		
	問4	29%	39%		
	問5	62%	72%		

● 2020年度 中学入試 第2回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	87%	91%	日本人の美的理念に関する二つの文章を読み、共通項を見つけ出すことを出題のねらいとした。 またグローバルな現代社会を生きる我々において自国の文化を理解する必要があると感じ、このような文章にした。	知識問題、読解問題のどちらも良く理解していた。記述では西洋と日本との美的理念の違いを踏まえた上で、記述することが必要となる。比較内容を理解し、設問で何を求められているかを考えて記述を作成してもらいたい。
	b	88%	95%		
	c	83%	89%		
	d	35%	59%		
	問2	36%	52%		
	問3 A	97%	98%		
	B	52%	59%		
	C	99%	100%		
	D	87%	91%		
	問4	80%	92%		
	問5	89%	95%		
	問6	54%	68%		
	問7	77%	85%		
問8	26%	36%			
2	問1 ア	46%	56%	受験生たちが普段読み慣れないであろうやや古めの文章を出題した。設問に関してはほぼ例年と変わらず語彙と心情理解と細かい内容理解を問うものにした。	語彙の得点率が合格者でもそれほど高くなく、受験生の語彙レベルの低下が見受けられる。その他読解問題は比較的よくできていたが、内容合致の得点率が低かったため、内容を精密に捉える力が望まれる。
	イ	62%	68%		
	問2	77%	78%		
	問3	51%	54%		
	問4	73%	82%		
	問5	68%	84%		
	問6	73%	83%		
	問7	51%	57%		
問8	48%	59%			
3	問1	82%	88%	日本の近現代詩は西洋の詩を参考にしながら、試行錯誤の末に生み出されてきた。この詩集は少し古いが、当時画期的と言われたものだ。同じ作者による、同じタイトルの詩を読み比べ、その表現方法を考えてもらった。	トータルの出来は、概ねねらいどおりであった。問1・問2は用語の意味を知っておこう。問3はスポーツ選手以外にも広く当てはまる表現が答えから遠い。消去法を用いるとよい。問5は選手の表し方が「あなた」と「僕」とで違うところがヒント。詩の問題は出題者の意図を、設問を通じて読み取るよう心がけるといいだろう。
	問2	39%	45%		
	問3	32%	37%		
	問4	62%	66%		
	問5	48%	57%		
4	(1) ①	58%	69%	語彙力と推理力を試す問題とした。辞書的な意味を手がかりとして、それに当たることばを答えさせる問題だが、答えとなることばが畳語であることに加え、しりとりとなっていることがわかると、かなり答えが推測しやすくなるはずである。	ここに挙げられたような言葉を使いこなすことができれば、より豊かな表現が可能となるはずである。さまざまな書物や機会を通じて、語彙力をきたえていくよう、日頃から心がけましょう。
	②	94%	98%		
	③	55%	65%		
	④	55%	64%		
	⑤	70%	80%		
	⑥	34%	42%		
	⑦	34%	45%		
	(2)	60%	70%		

● 2020年度 中学入試 第2回・グローバル 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	93%	96%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確認するための小問集合。 四則演算、食塩水、線分比、数の理論、図形(立体・平面)、の基本的な処理を問う問題であった。	基本的な問題を多く出題した。また、癖のない典型的な問題が多かったため、受験者全体の得点率も高く、合格のためには落とすことのできない問題となった。 食塩水の問題はやや得点率が低く差が出る問題であった。
	問2	79%	88%		
	問3	68%	83%		
	問4	91%	98%		
	問5	79%	88%		
	問6	75%	86%		
	問7	76%	89%		
	問8	82%	93%		
2	問1	80%	90%	本校でよく出題される旅人算の基本から標準的な問題である。 問2はダイアグラムを利用すると、図形としても処理できる問題であった。ダイアグラムを正確にかき、旅人算の基本公式を利用して解くことがポイントである。	問題文も複雑なものではなかったため比較的読みやすく、考えやすい問題であった。 問2は得点率に差が出ていて、適切に公式を活用できていない受験生がやや多かった様子である。
	問2	40%	66%		
3	問1	76%	94%	本校でもよく出題される平面図形の問題。 平行線と辺の比の基本的な知識や、台形の面積比の考え方が理解できているかがポイントとなる。また、問3は、比の変化によって面積がどのように変わるかを考える問題であった。	問1は基本的な問題であるが、合格者と全受験生の間にはやや得点率のひらきがあり、問1からしっかりと得点できることが重要であったと言える。面積比までは比較的よくできているが、比の変化が面積に与える変化をうまく見極めることができなかった様子であった。
	問2	45%	68%		
	問3	16%	31%		
4	問1	81%	92%	立体図形の求積の問題である。問1で状態を把握し、問2で水の量と高さの関係を問う問題。 問3では、面積比から容積の問題へとつながる問題であった。一つずつの問いを正確に解く力が必要である。	問1は水の量と底面積の比から高さを求める問題であった。得点率は高く、基本的な問題は得点できるが、問2のように少し問い方を変えると得点率が低くなるため、基本問題から標準問題へつなげることができない受験生も多かった様子であった。
	問2	54%	78%		
	問3	25%	47%		
5	問1	63%	78%	将棋を題材にし、図形的な観点と、場合の数の観点で考察する問題である。 図形から角度の特徴を捉えられるかがポイントであった。 問2は場合に分けて考えることで考察する場合が絞れるため、うまく場合に分けられるかがポイントとなる。	図形的な観点はやや物足りない得点率であった。 また、問2の場合の数の問題は、数え上げて対応できる問題であったが、極端に得点率が低かった。 最後の問題ということもあり、時間的に厳しい受験生もいたようである。
	問2	7%	13%		

● 2020年度 中学入試 第2回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 1	97%	100%	日本の国土を説明した文章から、地形、気候、産業、都市などの日本の地理的特徴を問う問題を出題した。	問6は日本海に面する近隣国を問うた問題。中国は日本海に面していない点に注意。問9(1)は16の道県の位置関係を確認して落ち着いて解答を。鳥取を島根と勘違いしている様子が見受けられた。問9(2)は、降水量の違いを季節差と地域差で判断できるかを問うた。太平洋側と日本海側の違いに着目できるとよい。
	2	64%	82%		
	3	60%	69%		
	問2	51%	54%		
	問3	85%	95%		
	問4	78%	87%		
	問5	58%	70%		
	問6	40%	37%		
	問7 D	47%	58%		
	F	87%	92%		
	問8	52%	56%		
	問9 (1)	40%	45%		
	(2) P	49%	56%		
(2) R	61%	73%			
2	問1	79%	92%	九州地方の史跡・名勝を通じて日本の歴史を概観する標準レベルの問題を出題した。	問2の正答率が低いですが、防塁は文永の役後に元軍の再来に備え築造され、弘安の役の際に元軍の上陸を阻んだ事実をふまえて正答を導いてほしい。
	問2	39%	50%		
	問3	98%	100%		
	問4	71%	85%		
	問5	78%	86%		
	問6	35%	44%		
	問7	66%	68%		
	問8 (1)	72%	82%		
	(2)	75%	85%		
	問9	37%	45%		
	問10	63%	73%		
問11	40%	48%			
3	問1	36%	39%	教科書に載っている内容だけでなく、いかに日頃の生活で「社会」に関連することに目を向けているかを問う問題構成とした。 カレンダーという必ず自宅にあるものを公民分野と連動させることで、日常的に興味・関心を持っているかを全体の主軸とした。	全体的に高い正答率と言える。テキストに書いてある言葉の暗記だけではなく、その内容をしっかり理解しているかが大きな得点差となった。公民分野の合格者の正答率が72%ということで、いかに80%を超える正答率の問題を落とさないかが鍵となった。
	問2	91%	95%		
	問3	76%	87%		
	問4 A	42%	55%		
	B	55%	65%		
	問5	71%	75%		
	問6	53%	61%		
	問7	68%	85%		
	問8	59%	59%		
	問9	80%	86%		
	問10	86%	97%		
	問11	82%	89%		
	問12 祝日	73%	79%		
問12 日付	34%	39%			

● 2020年度 中学入試 第2回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	52%	56%	中学受験で身につけてきた様々な知識をもとに、初めて読む文章(新聞の記事)の中にある要素と結びつけること、またある現象が起こる理由を思考する力を試す問題を出した。	概ね、よくできていた。問1は、昆虫のなかまの定義を正確に理解できていれば、選択肢の中から正解を見つけることができたと思う。問5の正解を導き出すには複数の要素を組み合わせる必要があったが、正答率が高かった。問6Aは、問題で求められていることを読み取り、それに従って答える必要がある。
	問2	80%	90%		
	問3	71%	78%		
	問4	59%	75%		
	問5	85%	90%		
	問6 A	65%	79%		
	B	96%	96%		
2	問1	83%	91%	天体について問う問題である。さそり座の見える季節と年周運動、惑星を観察したときの見え方や特徴を判断できるかを見た。また、月の見える時間と形に関する問題を出した。	さそり座の見える季節と惑星の特徴はよくできていた。また、月の見える位置と時刻の関係、その時に見える月の形についてはまずまずであった。それに対して、惑星を観察したときの明るさについては、正解率が低かった。実際に観察するとその特徴はわかりやすい。
	問2	64%	69%		
	問3	96%	98%		
	問4	35%	43%		
	問5	51%	63%		
	問6 (1)	67%	85%		
	(2)	69%	86%		
3	問1	37%	44%	溶液の構成と、ろ過の操作に関する基本的な知識を確認し、溶解度のデータを表から正確に読み取ることができるかを問うた。また、溶解度のデータを使った計算問題を通して、溶解度の理解を確認し、データより予想される現象について問うた。	問1の「溶媒」という語句については、予想していた得点率よりかなり低い結果となった。問2・問4は全受験生、合格者ともに得点率が高く、実験操作や溶解度の意味については、しっかりと理解できている受験生が多いことが分かった。問5の計算問題や、問3・問6のデータから現象を想像する問題は合否を分ける出題となった。
	問2	85%	89%		
	問3	47%	63%		
	問4	73%	79%		
	問5	29%	45%		
	問6	51%	74%		
4	問1	88%	96%	パイプ内の空気の振動によって発生する音に関しての問題。中学入試ではほとんど出題のない現象であるが、問題文を読み取ることができれば解くことができる。基本的知識、文章読解、表の読み取り、計算力が必要となる。	問1、問2は基本的知識から解くことができる。問3以降は与えられている表や文章を読み取り、計算をすれば答えが得られる。問5では1オクターブ音が高くなると振動数が2倍になることを表から読み取ることができれば、もっと簡単に計算できたはずである。
	問2	84%	95%		
	問3	62%	84%		
	問4	73%	92%		
	問5	43%	55%		
	問6	65%	69%		



● 2020年度 中学入試 第3回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	92%	96%	「見えない人」の、視覚に頼らない情報処理や空間認識についてまとめられた文章からの出題。漢字の書き取りや接続語から本文の内容正誤といったオーソドックスな出題に、例年通り60字程度の記述問題を課した。	論説文に頻出の問題形式(接続語・キーワードの言い換え等)には受験までの演習量の豊富さを感じさせる非常に高い得点率であった。一方で、変化をまとめさせる記述問題では、解答にA→Bへの変化を記すのみで、その変化をもたらした「立体視」を落としている解答(減点)が多かった。また、内容正誤の問題では、選択肢の内容が本文中のどの記述と対応するのかを見つけるのに時間のかかった受験生も多かった様子。
	b	62%	81%		
	c	82%	87%		
	d	78%	83%		
	問2 (1)	69%	82%		
	(2)	75%	82%		
	問3	94%	97%		
	問4	95%	100%		
	問5	77%	85%		
	問6	56%	69%		
問7	40%	52%			
問8	52%	63%			
2	問1 A	42%	36%	物語全体のテーマがしっかりと把握できているか、登場人物の心情に関わる描写にしっかりと注目して読んでいるかを問う問題を中心に出题した。	標準的な心情把握は全体的に良くできていたという印象である。しかし問7の正誤問題では3つすべてを正解していた。書かれている言葉を額面通りに受け取ってしまうとミスしてしまうので、心情の変化には注意をして物語を読み進めてほしい。問6の短い記述はやや難しかったようだ。
	B	85%	87%		
	問2	57%	63%		
	問3	70%	77%		
	問4	84%	91%		
	問5	88%	95%		
	問6	30%	31%		
	問7	63%	67%		
3	問1	62%	76%	本校の入試では、詩を出題するという点を折に触れてアナウンスしているところであるが、この問題も、表現技法や比喩表現の内容確認など、出題内容としてはオーソドックスなものをと考えた。	全体的によい出来であった。また、全受験生に対する合格者の得点率が、10%程度高くなっているという点から考えると、ほぼ狙いどおりの出題とすることができたものと思う。
	問2	77%	87%		
	問3	61%	77%		
	問4	69%	79%		
	問5	62%	68%		
4	ア	57%	71%	漢字の多くは部首が大きな意味を表す。だから漢字を効率よく学ぶには部首の意味を理解することが必要だ。ただ、同じ部首でも形の違うものがある。そのことを知っておいてほしいということが出題の意図である。	当初の想定よりかなり良くできていた。選択肢が少ないことから、熟語のどちらか一方がわかれば正解が出せたのだろう。組み合わせでできる熟語を書き取ってもらう問題にしてもよかったかと思う。
	イ	39%	54%		
	ウ	71%	78%		
	エ	62%	73%		
	オ	64%	72%		

● 2020年度 中学入試 第3回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	95%	97%	基本的な特殊算、図形の計量などの小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、数の理論、図形(平面・立体)の計量を出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。	問2の単位換算は簡単な割に正答率が低く、苦手としている受験生が多かった。問6、7は地道に論理立てることを問い、正答率は想定範囲。問8は以前、同様の問題を出題した際に「円周率3.14がない」という質問が試験中に相次ぎ、今回予防のために記載したが、「3.14が解答には必要ない」ことに気づかず無用の計算を強いられて誤答した受験生が多かったと推測される。
	問2	73%	82%		
	問3	79%	96%		
	問4	83%	91%		
	問5	75%	90%		
	問6	66%	85%		
	問7	93%	97%		
	問8	55%	79%		
2	問1	73%	85%	基本的な平面図形の計量問題で、入試説明会でもポイントに挙げた比を絡めた出題である。辺ABと辺ADに具体的な長さを与えたので、最悪でも実際の長さや面積を求めれば正解に辿り着けるように(時間はかかると思うが)、難易度を低く設定した。	問1は△BAEと△CDGが二等辺三角形であることを見抜けなかったのか意外な正答率であったので、3問とも全滅してしまうので正答率は伸びなかった。問3はAD=10cmが与えられていて、∠AHD=90°は容易に読み取れるので、△AHDを3:4:5の直角三角形と勘違いしてしまった誤答が散見された。
	問2	51%	67%		
	問3	25%	47%		
3	問1	55%	68%	場合の数の出題。ルールを早く正確に解釈して、実際にルールに則って実験をして、地道に場合分けする論理力を問うものである。	問1はルールを正確に把握でき、盤上の操作ができていのかどうかを問うもの。公式やパターンを当てはめる訓練は積んでいても、考えるプロセスが苦手な受験生が多かった。問2の正答率は想定範囲である。
	問2	9%	14%		
4	問1	37%	66%	基本的な図形の移動。問1が問2の誘導になっている。1辺の長さの設定も10cmなので3.14倍も苦にならず、難易度は低い。	正直、この正答率には驚きを隠せない。立体計量に見られるような空間認知能力は、これからの社会を担う人材には最も要求される能力であるが、ここに難がある受験生が多いことが見てとれる。
	問2	15%	33%		
5	問1	8%	10%	大学入試共通テストでも導入予定であり、あらゆる場面で出題されることが多くなった会話文形式を出題した。いずれも平易な線分図または面積図の問題であるが、会話文の中から必要な情報を早く正確に抽出して、その都度問題用紙の余白に図や文章に書き下ろす作業ができたかどうかポイントである。問2、問3はレベル的にはそれぞれA、Bであるが文章を読む手間を鑑みて1ランクずつ挙げた設定とした。	問1は簡単な場合分けで対処できるが、その場合分けのミスだろう。問2は単純なつるかめ算の問題で正答率は高かった。問3は「コーンの2玉」を1とおく帰一算で難易度は高いと思われたがこの正答率はよく健闘した。
	問2	79%	92%		
	問3	21%	40%		

● 2020年度 中学入試 第3回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	68%	81%	くだものや野菜の生産量全国上位、各工業地帯の特色、雨温図など毎年出題している問題で基礎的な知識を確認した。各都道府県の場所や特色の理解も求めた。一部に歴史分野との融合問題も出題した。	地理と歴史分野の融合問題の正答率が低かった。出題されても戸惑わずに冷静に解答したい。漢字指定の問題では正確に書けるかどうかで点差が開くので、日頃から正しい漢字を書く習慣を身につけたい。基礎・標準問題で確実に正解を重ねて欲しい。
	問2	83%	94%		
	問3	83%	85%		
	問4	41%	55%		
	問5	71%	78%		
	問6	70%	76%		
	問7	62%	77%		
	問8	72%	91%		
	問9	21%	28%		
	問10	55%	62%		
	問11	77%	87%		
	問12	71%	78%		
	問13	32%	47%		
2	問1	86%	94%	すべての時代の基礎・基本を確認した。事実の内容や重要人物や重要事項について確実に書いて解答できるかを確認した。	全体的に人物名や重要語句はしっかり理解できていた。問11や問15のような出来事の並びかえを正確に答えることや、問4や問7などの事実の内容に関する正誤問題ができるか否かが合否を分けたと思われる。難解な語句よりも基礎・基本をしっかりと理解することを心がけてほしい。
	問2	88%	92%		
	問3	74%	87%		
	問4	95%	99%		
	問5 (1)	95%	97%		
	(2)	92%	95%		
	問6	86%	88%		
	問7 (1)	82%	90%		
	(2)	91%	95%		
	問8	79%	91%		
	問9	96%	100%		
	問10	94%	100%		
	問11	55%	58%		
	問12	98%	100%		
	問13	81%	91%		
問14	97%	97%			
問15	58%	67%			
3	問1	64%	79%	昨年7月に実施された参院選に関する新聞記事から、日本の政治制度のしくみや昨今の国内外の情勢を問う問題を作成した。現在の日本の政治のしくみを正しく理解できているか、国内外の情勢についても普段から興味・関心をもって学んでいるかがポイント。問9の論述問題(30字以内)では、国際問題の争点を自分の言葉で簡潔に述べられるかを問うた。	基本的な知識を問う問題では正答率が高かったが、正確な知識理解を要する複数解答の問題(問5・問6・問11)は正答率が低かった。問9の論述問題は合格者の得点率が全受験生の2倍に近くっており、自分で考えて表現する力の有無が合否を分けたと言える。問10(共和党)の正答率が低かったのは意外。時事問題にも興味をもってほしいところ。
	問2	56%	68%		
	問3	87%	94%		
	問4	73%	85%		
	問5	6%	8%		
	問6	32%	38%		
	問7	87%	94%		
	問8	60%	62%		
	問9	24%	44%		
	問10	34%	44%		
	問11	18%	17%		
	問12	66%	79%		
	問13	76%	87%		

● 2020年度 中学入試 第3回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	74%	81%	テーマは植物に関する実験・考察問題。 次の課題に関する理解を問いた。 問1：文章の読み取り問題 問2、4、6：知識問題 問3、5、7、8：実験考察問題 知識問題はしっかり植物の特性を把握できているかを確認するため。 文章の読み取り問題や実験考察問題は、文章から内容を想像し、理解できているかを確認するための問題として出題した。	全般的によくできている。全受験生と合格者で差が出たのが、問1の文章読み取り問題と問5の実験考察問題であった。 問1は文章と設問をしっかりと読み取れば、実験者の名前が出てくるはず。 問5は知識だけでなく、実験の意味を理解していなければ解けない問題である。
	問2	96%	97%		
	問3	82%	86%		
	問4	94%	95%		
	問5	80%	94%		
	問6	88%	94%		
	問7	96%	99%		
	問8	94%	96%		
2	問1	91%	94%	本校と関係の深い多摩川についての問題である。地学分野の基本的な知識を身に付けられているかをはかること、入試問題を通して多摩川の様々な地形を知ってもらうことをねらいとした。	全体的にどの受験生も良くできていた。問2の選択問題での正答率は想定以上で、理解度が高いという印象を受けた。問6のような頻出でない知識問題もきちんとおさえている人も多く、易しめな出題となった。
	問2	95%	99%		
	問3	94%	99%		
	問4	88%	95%		
	問5	92%	97%		
	問6	50%	68%		
3	問1 B-C	85%	95%	物質の状態変化について問うている。基本的な知識が身に付いているか、実験結果のデータなどから必要な情報を読み取り比例計算等を用いて量的な計算ができるかどうか、三態のモデル図を理解しているかなどを問うた。	全体としては、基本的な知識・計算力を問う問題である。問3・問6(2)以外は正答率も高く、受験生にとっては易しい問題であったと考えられる。問6(2)は正答率が落ち、予想を下回った。比熱のちがう二つの物質の温度変化の問題は難易度が高かったと思われる。それでも過去問対策がされていれば合格点がとれる問題である。
	D-E	82%	91%		
	問2	94%	100%		
	問3	50%	68%		
	問4	66%	77%		
	問5	83%	92%		
	問6 (1)	77%	85%		
	(2)	29%	41%		
4	問1	74%	87%	平面鏡と凸レンズの特徴についての問題である。平面鏡の設問の問3は、あまり見かけない問いだが、作図により答が導けるかを確認するねらいだった。凸レンズの設問も前半は見慣れた問いだが、問6はやはり作図して相似の図形の性質が利用できるかを問いとした。	いずれの問いもほぼ想定通りの得点率であったが、問5はもう少しできてほしい。選択肢の数が多いのも一因だったかもしれないが、知識を覚えるだけではなく、作図して像の位置を調べることも大事である。この問いだけではなく、他の問いでも図を描いて考えることも意識しよう。
	問2	75%	87%		
	問3	30%	50%		
	問4	78%	94%		
	問5	34%	47%		
	問6	22%	27%		

● 2020年度 中学入試 第4回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	77%	90%	主題を捉えて、作者の見解に対して論のプロセスをしっかりと意味づけて読み解くことが出来るか。 キーワードや重要表現を押さえて、本文趣旨に対する意味づけが出来ているかを確認。 語句の意味や接続詞、漢字書き取りなど基本的な国語力を確認。	漢字書き取りや接続詞補充など基本的な力は概ね良好であった。語句の意味において本文の文脈に即した読解や漢字に対する意味のイメージが出来ていない点はややあった。 記述問題は本文趣旨に対するポイントとなる表現の内容確認であるが、趣旨に対する読み取りが出来ていない答案が多かった。 概ね全体の趣旨に対する理解は出来ていたと感じる。
	b	86%	91%		
	c	80%	88%		
	d	67%	84%		
	問2 ア	63%	79%		
	イ	47%	61%		
	問3	13%	27%		
	問4 A	77%	90%		
	B	47%	63%		
	C	84%	89%		
	問5	23%	40%		
	問6	49%	53%		
	問7	18%	24%		
問8	54%	69%			
2	問1 ア	64%	60%	小学6年生の子供たちと、教頭先生との交流を描いた作品。当然のことながら、話の展開をきちんとつかむことが必要である。また、子供たちが用いるトリックのしくみを読み取れるかもポイントの一つである。	全体的に平易な問題としたつもりであったが、予想に反して、問2・問3は正答率が低かった。これは、一部分だけを見ても答えが得られない問題であり、しっかりと文章を読んで内容を把握する必要があるということである。作問をする側としても、教訓とすべき結果となった。
	イ	86%	93%		
	問2	17%	30%		
	問3	11%	25%		
	問4	82%	85%		
	問5	76%	88%		
	問6	43%	52%		
	問7	89%	98%		
	問8	41%	48%		
問9	64%	73%			
3	問1	56%	76%	問2のような毎年、毎回出題される表現技法の問や問4のような知識問題を出題しつつ、その他では詩の内容を聞いた。特に問5は詩の主題に関わるので、できて欲しい問題である。	全受験生と合格者の得点率で差のついた問題が多かった。差のつかなかった問4は知識を問う問題であったので、詩の内容、感情を読み取ることが出来るかどうか、合否の分かれ目となったようだ。
	問2	53%	70%		
	問3	62%	81%		
	問4	89%	91%		
	問5	36%	52%		
4	問1 ①	41%	61%	漢字の成り立ちを説明した文章から、該当する漢字を答える問題である。成り立ちの説明からだけでは難しくても、その意味や用法についても説明しているので、それも含めて考えることが必要である。	③「文」の正答率が最も低い結果となったが、「ふみの日」・「天文(=天上をかざる星や月などの模様)」・「文句を言う」などを連想できれば正解につながったはずである。
	②	29%	51%		
	③	11%	19%		
	④	17%	28%		
	問2	40%	54%		

● 2020年度 中学入試 第4回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	89%	90%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、数の理論、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものであった。問1は計算問題、問2は単位換算。問3～問6は特殊算および数の規則性。問7・8は図形の問題を出題した。	得点率が極端に低いものではなく、よく解答していた。問4・7・8は合格者と全受験生との得点率の差が大きく、特殊算と図形への対応力が合格するために必要だと感じられる。
	問2	48%	58%		
	問3	90%	96%		
	問4	61%	92%		
	問5	89%	94%		
	問6	33%	49%		
	問7	45%	76%		
	問8	42%	70%		
2	問1	65%	84%	5人家族の年齢に関する問題。線分図や面積図を利用して、家族全員の年齢を求めることができたかがポイントの出題であった。	考え方によって、問1の三男よりも先に、問2の長男の年齢を求めることも可能。この問題に対する合格者の得点率は高く、合格を目指す受験生はぜひ得点しておきたいところ。
	問2	84%	98%		
	問3	44%	76%		
3	問1	57%	76%	回転体の体積に関する問題。問1は基本的な体積の求め方を問う問題で、問2は相似の知識も利用する応用的な問題であった。	問1は易しい問題のわりに得点率が低かった。円周率が関わると計算ミスをしやすいため注意が必要。問2は相似を利用するために、頂点Bから回転軸にむけて補助線を引くのがポイント。この引き方は入試問題ではよくあるのでおさえておきたい。
	問2	20%	45%		
4	問1	34%	37%	平面図形に関する問題。BEの長さを□などとして、各辺の長さを表すことができたかが1つ目のポイント。2つ目のポイントは、比の計算から□に当てはまる長さがいくつかが求められたかである。	問1から平面図形に関するさまざまな知識を利用する大問であり、多くの受験生が苦戦していた。問2は、問1が解ければ取り組みやすい問題だが、得点率は極めて低い。問1の難易度と残り時間から考えて、問2に取り組むのは得策ではないと考えた受験生が多かったようである。
	問2	1%	3%		
5	問1	56%	75%	将棋大会で条件に合う選手の人数を求める問題が問1・2。問3は問題の状況から試合方法について説明する記述式の問題であった。文章を理解し、勝ち残っていく選手の人数を正しく把握できるかがポイントであった。	問1は易しい問題だが、得点率は高くない。残りの試験時間を気にしつつも、落ち着いて問題文を読んで解答してほしい。問2・問3は勝ち残っている人数を正しく把握できず、間違ってしまった受験生が多かった。
	問2	18%	35%		
	問3	14%	30%		

● 2020年度 中学入試 第4回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 (1)	62%	76%	ここ数年出し続けている47都道府県から5つほどを抽出し出題した。小問のパターンも県庁所在地を書かせる、関連する統計資料の読み取り、雨温図を出題した。都道府県と県庁所在地は正しくかけることはもちろんのこと、位置関係までしっかりと把握できているかも求めている。	概ね予想通りの得点率となった。この大問で大きな失点は防ぎたい。雨温図の判別は降水量が少ない地域は冬の気温で見分けたい。
	(2)	76%	90%		
	(3)	77%	88%		
	問2 (1)	74%	84%		
	(2)	48%	65%		
	(3)	66%	79%		
	問3 (1)	72%	82%		
	(2)	79%	92%		
	問4 (1)	70%	82%		
	(2)	36%	47%		
	問5 (1)	69%	83%		
(2)	43%	60%			
2	問1	58%	66%	教科書レベルの基本事項を問う中で、歴史に関する基礎知識と記述力の正確性を確認した。また、時事問題や文化史、公民分野にそれぞれ関連する人物・公害問題などを出題し、社会全般に関する総合的な知識や関心も求めている。	基本問題が中心で出題形式もほぼ例年通りであったことから、全般的に高い正答率となった。一方で、並べ替えを求める整序問題、上杉謙信を正確に漢字で書けない、あるいは小林一茶を松尾芭蕉と混同しての誤答が多く見られた。教科書などを中心とする基本事項の反復学習が望まれる。
	問2	69%	88%		
	問3 (1)	72%	85%		
	(2)	54%	73%		
	問4	43%	58%		
	問5 (1)	29%	43%		
	(2)	52%	71%		
	問6 (1)	82%	94%		
	(2)	86%	97%		
	問7	91%	96%		
	問8	68%	81%		
問9	79%	88%			
3	問1	59%	74%	安倍内閣の政治の側面から国内外で起こった代表的な出来事や現代の日本が抱える問題点などについて考えさせることを目的として出題した。国内外の基本的な出来事に対して日常的に興味関心を持っているかを問う問題を意識的に作成した。	基本的な知識と正確な記述力を問う問題であったので、全受験生においては約77%、合格者においては約85%と高い得点率となった。そのため、基本事項での失点は、大きな得点差となった。基本事項の反復学習と日常的にニュースなどに関心を持つことが不可欠である。
	問2	75%	88%		
	問3	77%	87%		
	問4	64%	85%		
	問5	89%	94%		
	問6	93%	91%		
	問7	52%	55%		
	問8	94%	99%		
	問9 語句	90%	97%		
	番号	58%	62%		
	問10	92%	99%		

● 2020年度 中学入試 第4回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	71%	89%	鳥類の呼吸のしくみに関して、ヒトの呼吸と対比しながら、説明文を読んで答える問題。問1・問2はヒトの呼吸についての基本的な理解を問うた。問3以降は、あくまで事前の知識がないことを前提として、与えられた説明文からどこまで理解できるかを問うことを主眼としている。	表現方法に戸惑ったり(問2(2)など)、初めて見る内容に接する困難(問3以降)のなかで、苦心しながら力の限りを尽くす様子が解答用紙から読み取れた。その真摯な姿勢に敬意を表したい。 全体として、知識習得などの点では大きな差はないと思われる。いかに設問の趣旨を汲めたかでかなりの差がついた。
	問2 (1)	86%	98%		
	(2)	36%	45%		
	問3	35%	61%		
	問4	38%	53%		
	問5	63%	76%		
2	問1	84%	94%	地形図と柱状図から空間的な概念がイメージできるかを問う問題である。また、岩石の基本的な特徴と地層の堆積した当時の環境を把握して正確に答えられるかを問うた。	地形とボーリング調査の図から、地下のようすを推定して地層がどちらに傾いているかを求める問題は、火山灰で考えるとわかりやすい。また花こう岩の特徴は、深成岩での特徴を理解しておくことが重要である。それ以外の問題は比較的よくできていた。
	問2	67%	90%		
	問3	54%	72%		
	問4	60%	72%		
	問5 ①	42%	62%		
	②	54%	69%		
3	問1	95%	99%	気体の性質とそれに関わる知識を問う問題である。また、気体の発生についてのグラフを読み取る力と、計算する力を確認した。	全体的に扱いやすい問題であり、多くの問題で正答率が8割を超えていることから基本的な知識は持っているようである。一方で、問2Cにあるアンモニアの発生方法のような、やや細かい知識は正答率が低かった。また、問7(2)はグラフの読み取りは計算段階が多く正答率が低かった。一つ一つ順番を追って、計算する力が必要であるように感じた。
	問2 A	89%	98%		
	B	80%	94%		
	C	53%	58%		
	問3	82%	92%		
	問4	88%	98%		
	問5	80%	91%		
	問6	94%	100%		
	問7 (1)	89%	96%		
(2)	18%	43%			
4	問1	73%	92%	斜面をすべり下りる小球について、はなす高さ、小球の重さの違いが衝突したばねの縮みとどのような関係になるか、表から読み取る問題である。	一つの条件を固定して、その他の条件の関係を表から読み取り値を選択することはよくできていた。問4は3つの条件の関係を選擇する問題だったが、何に比例するかは選べきれない受験生が多く、問5につなげることは難しいようだった。
	問2	82%	97%		
	問3	76%	94%		
	問4	53%	74%		
	問5	35%	45%		



● 2020年度 中学入試 帰国生 AB方式 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	79%	82%	言葉と人との関わりについて述べた文章。漢字や語句の問題は基本的なものを、読解に関する問いも特に難しいものではなく、本文をきちんと読めれば正解に至るものである。ただし、問6・問7の記述問題は、単なる抜き出しではなく、条件に沿って表現を工夫する必要があるので、やや難しい問題と言えそうである。	全体的には、予想を上回る出来であった。問1bの得点率が低いのは、「キカク」の意味がつかめなかったことによるものか。また、記述の問題では、「認識」が、本文のどの部分の言い換えとなるのかや、与えられている部分と対応した表現にすることが難しかったものと思われる。
	b	33%	38%		
	c	63%	67%		
	d	59%	72%		
	問2	75%	85%		
	問3	59%	62%		
	問4	55%	56%		
	問5	70%	76%		
	問6	28%	32%		
問7	32%	36%			
2	問1 a	34%	38%	問1・問3・問8・問9では日本語の意味の中で普段無自覚にしているような部分に焦点を当てて出題した。また、問2・問4・問8は文全体の内容を押さえなければ解けないように意識をして出題した。概して一般入試より、日本語の感覚を問うような問題を増やしている。	問4や問9のように広い範囲から答えを探す問題が苦手なようであった。普段から文章全体の内容を押さえながら読むようにして欲しい。
	b	85%	91%		
	問2	66%	72%		
	問3	66%	77%		
	問4	20%	28%		
	問5	71%	73%		
	問6	83%	88%		
	問7	31%	32%		
	問8	14%	19%		
問9	15%	21%			
3	問1 1	56%	61%	現代詩の基本的な読み方にそった標準的な問題とした。詩に苦手意識をもつ受験生は多いと思われるが、入試説明会でお話ししたように、まずは表現技法などの基礎事項の確認からはじめてほしい。このような意図から、問1を表現技法の問いとし、問4までの設問を解く過程で詩の内容が理解できるように配慮した。	「出題のねらい」でも触れたように、まずは基本事項の確認を。問1は、傍線を引いて技法を直接問うていない分やや難度は上がってはいるものの、いずれも詩の読解以前に解ける問題ととらえてほしい。問3はごく基本的な内容理解で正答率は高い。問2は内容理解に関連した表現の問題で、やや難しかったようだ。自分自身も似たようなことばづかいをした経験がないか？全体的にわかりづらい詩ではなかったと思うが、問4の設問自体も読解のヒントとなっている。
	2	39%	44%		
	3	75%	80%		
	問2	37%	37%		
	問3	78%	89%		
	問4	47%	50%		
4	問1 I (1)	83%	89%	問1 色(青と白)を用いた慣用句の問題。日常生活の中でもよく使われそうなものを選んだ。問2 日本語の持つ、象徴性を問うた。一般的に使うものであるが、いざ問題となってみると難しいかもしれない。	問1 なじみのあるものばかりであったためか、高い得点率であった。受験対策が十分に行われていることの表れでもある。問2 ②はできていたが、①「雪解け」③「山」のこの文脈での象徴性はあまり理解できていなかった。日常で使うことの多いものなので、理解をしておいてもらいたい。
	I (2)	73%	83%		
	II 2	86%	94%		
	II 5	83%	92%		
	II 6	83%	92%		
	問2 ①	55%	58%		
	②	87%	92%		
	③	32%	38%		

● 2020年度 中学入試 帰国生 AB方式 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	82%	88%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、特殊算の基本問題、規則、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1・2は計算問題、問3～6は特殊算を幅広い分野から、問7・8は図形の問題を出題した。	数量の問題は昨年と比べ、受験生は合格者・不合格者ともに出来が良かった。基本的な力を見る問題が多かったが、昨年と比べ受験算数に慣れていなくとも手をつけやすかったようである。図形の問題の出来はまずまずよかった。特に平面図形はしっかりと計算できていた。
	問2	87%	95%		
	問3	84%	93%		
	問4	94%	99%		
	問5	69%	89%		
	問6	55%	74%		
	問7	78%	90%		
	問8	61%	79%		
2	問1	73%	87%	袋からボールを取り出す状況を読み取り、そこからつるかめ算等を利用して個数を求める問題。条件がある種類の玉を除いて、そこから他の2種類の玉を計算で求めることができるかどうかを問う問題である。	文章から必要な情報をいかに早く正確に取り出せるかが分かれ目となった。特に問2の「できるだけ多く取り出す」ということからどうなればいいのか考えることができるかどうかで出来が分かれたようである。
	問2	31%	46%		
3	問1	81%	94%	旅人算に流水算の内容が絡んでいる文章題。ダイアグラムや特殊算を利用して計算できるかどうか。問1は基本的な問題。問2は旅人算の標準的な問題。問3は何回か往復する応用問題である。	文章から必要な情報をいかに早く正確に取り出せるかが分かれ目となった。図やダイアグラムを用いて状況を書いていけば、問1・2ともスムーズに解ける。本校では旅人算の出題が多い傾向であるためか、しっかりと練習していたようである。
	問2	76%	90%		
	問3	57%	75%		
4	問1	92%	97%	本校では特徴的な平面図形と比を絡める問題。問1・問2は相似な三角形から線分比を求める問題である。問3は線分比から面積比を導き、面積を求める問題である。	昨年同様、典型的な比の問題であり、過去問等で練習をしている受験生にとって比較的取りやすかった問題だったように思える。特に線分比は例年よりも出来は良かった。ただ、今年度も面積比の正解率が低く、ここ最近の受験生全体の傾向のように見受けられる。
	問2	65%	82%		
	問3	31%	48%		
5	問1	48%	64%	いくつかの状況からカードの数字やその合計、さいころの目の和を予測する場合の数の問題。条件を整理するなど、問題の文章から推測できるかどうかを問う。	前提として問題文のルールが理解できているか。そして条件から絞り込んでかきあげることができるかがポイントであった。情報の読み取りに時間がかかった受験生が大半で、そのため、問1で苦戦していた。最後まで解いた受験生はわずかであった。
	問2	3%	5%		

● 2020年度 中学入試 帰国生 A方式 英語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	Q1	35%	48%	英検2級～準1級レベルの語彙・文法問題と、併せて現地の教科書に出てくるレベルの語彙も習熟度確認のために出題した。基礎的なものから応用的なものまで、幅広くバランスを取りながら出題している。	概して理解できていたようであったが、語彙問題では似たようなスペリングの選択肢での誤答が目立った。記述問題に関しては基本的な語彙においてもスペリングミス(例: heroineなど)が散見された。ライティングを想定した語彙学習が今後の課題になるものと思われる。
	Q2	50%	62%		
	Q3	51%	60%		
	Q4	39%	52%		
	Q5	48%	74%		
	Q6	39%	44%		
	Q7	52%	68%		
	Q8	13%	16%		
	Q9	61%	70%		
	Q10	65%	74%		
2	(1)	75%	94%	英文、今回は英語の会話文を読み、その文脈を正しく追った上で、論理的な会話になるように、選択肢から空所を埋める作業をさせ、受験生の英語読解力と論理性を伴った思考であるかを問うている。	全受験生と合格者の得点率は十分相関性があり、妥当な結果であった。この問の解答は、選択肢から選ばせる形式であるので、しっかり内容が読め、小学6年生としてロジカルな考えができる児童にとっては容易な問題であったと思う。合否の点差は英語理解力と考えられる。
	(2)	81%	88%		
	(3)	54%	64%		
	(4)	76%	84%		
	(5)	79%	98%		
3	Q1	45%	53%	英検2級および中堅大学レベルの並べ替え問題である。分詞や不定詞などの基礎的な文法事項をもとにした応用文を作成できるかという意図のもとに出題した。それらに加えて英語長文を読む際によく見かける(使用される)分詞構文やイディオムが絡む問題も複数出題した。	英作文で用いる比較的容易なもの(平易な接続詞の用法・「～を好む」というイディオム・使役動詞のhaveを用いた受け身構文など)に関しては取りこぼさず得点につなげられていたようである。対して付帯状況を表す分詞、無生物主語と不定詞を組み合わせた文語的な表現においては苦戦している様子であった。
	Q2	36%	41%		
	Q3	57%	77%		
	Q4	66%	83%		
	Q5	62%	72%		
4	Q1	50%	54%	まとまった物語英文を読み、登場人物の関係と文脈を正しく追った上で、英文の流れを最後まで正しく追えるかを問うた。最後に本文から読み取れる教訓を問うてみた。また語彙に関する問題は文脈から推測ができるかどうかを問うた。	全受験生と合格者の得点率は概ね相関性があり、妥当な結果であった。しかし最後の本文全体から読み取られる教訓は普段から文字面をすくい取って読むのではなく、思考を伴った読解力が求められる。また物語の序盤も慎重に読み進めていく必要がある。
	Q2	58%	66%		
	Q3	71%	86%		
	Q4	82%	94%		
	Q5	33%	36%		
5	Q1	68%	76%	記述を含む長文の問題である。部分的な和訳や全文和訳の問題を通じ、あえて日本語の運用能力も問うた。また、長文中の語彙レベルはあえて低く設定しているものの、指示語や代名詞が何を指しているかしっかりと理解し日本語で説明できるかが正答の鍵となる問題である。	本文内の使用語句は難しいものはなかった。もし知らない語句があったとしても十分に前後関係で読み取ることができ、正解を導き出せたようである。また、本文の語数に関しては例年同様であったため、じっくりと読み込み、丁寧に記述すればQ2・3において正答率を上げることができたはずである。また、Q3において、全体の構文は見えているにもかかわらず“they”の読み違いが目立ったので、本文の流れをしっかりと確認したうえで解答したい。
	Q2	47%	52%		
	Q3	31%	40%		
	Q4	80%	84%		

● 2020年度 中学入試 帰国生 B方式 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	90%	98%	地理分野と原始～近世の歴史分野を融合させて出題した。地理分野では貿易などの基本的な事項、歴史分野では各時代の特徴を理解しているかを出題した。	全体的に高い得点率となった。理科と同時間で解くため、問題の読解ミスに気をつけたい。問2(2)は、雨温図ではないため、判別にやや時間がかかる。全体を通して難しい問題は多くないため、確実に得点をしていきたい。
	問2 1	94%	98%		
	2	59%	68%		
	問3 1	56%	66%		
	2	30%	33%		
	3	88%	98%		
	問4 1	64%	76%		
	2	67%	74%		
	問5	73%	82%		
	問6	72%	78%		
	問7	91%	94%		
	問8	75%	79%		
	問9	63%	74%		
	問10	46%	59%		
2	問1	79%	82%	元号をテーマに近代、現代史と公民分野を出題した。公民分野では参議院議員選挙もあったことから基本的な選挙に関する事柄をやや多めにした。	基本事項が多いため、高い得点率の設問は確実に得点したい。現代史では、歴史分野というより数年前の時事問題に近い性質の問題もあったため、得点率は低めとなった。
	問2	91%	95%		
	問3	74%	79%		
	問4	85%	95%		
	問5	54%	63%		
	問6	46%	55%		
	問7 あ	93%	98%		
	い	87%	94%		
	う	96%	100%		
	問8 1	82%	89%		
	2	45%	59%		
	問9	24%	27%		
	問10 1	24%	26%		
	2	96%	98%		

● 2020年度 中学入試 帰国生B方式 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	69%	73%	種子の発芽を題材にして、植物に関わる知識を問うとともに、比較対照を適切に行いながら実験結果の解析ができるかを問うた。	受験生全体として基礎知識の定着、実験の解釈ともに一定の水準にあり、好結果だったといえる。最後の問7のみ、酸素・二酸化炭素という複数の要素がそれぞれ増減することをどう事実として判断するかが大きな差が出た。2つの実験結果の数字の差をとってはじめて二酸化炭素量の変動が見えてくることは短時間の中ではなかなか考えが及びづらかったようだ。
	問2	82%	91%		
	問3	99%	100%		
	問4	92%	91%		
	問5	75%	80%		
	問6	79%	87%		
	問7	41%	49%		
2	問1	88%	91%	太陽の動きについて考える問題である。透明半球上における、日の出から日の入りまでの1日の太陽の位置、季節による太陽の位置や見え方の違いを把握して正確に答えることが求められる。	全体的によくできていた。太陽を透明半球に投影したときの季節については、良くできていた。南中時刻が明石市より東に位置しているか西に位置しているかを読み取る問題はしっかり押さえておきたい。
	問2	75%	87%		
	問3	65%	74%		
	問4	86%	93%		
	問5	62%	77%		
3	問1	98%	99%	ものの溶解度や、その実験操作についての知識を問う問題である。また、与えられた情報と、知識を繋げ、情報を整理する力や計算する力が求められる問題にした。	問3、4、5、6で差がつく問題となった。このうち、3問は、計算問題であり、表で与えられた情報を読み取り、整理する力、そして溶解度の計算ができるかどうかのポイントになった。 また、その他の問題では、基本的な知識やグラフや図を読み取る力や、注意力も求められている。特に問4では、与えられた表から違いを理解し、答えを正確に選ぶ知識が必要であった。
	問2	61%	70%		
	問3	85%	96%		
	問4	39%	59%		
	問5	39%	49%		
	問6	35%	49%		
4	問1	87%	91%	ふりがなが1往復する時間が何に関係するかを、表中のデータから考察する問題である。さらに目新しい内容として、おもりの平均の速さを考える設問も加わっている。暗記していればできるような知識問題ではなく、その場でしっかり考える力を出題のねらいとした。	受験生としてはよく見かけるふりがこの題材だったので、問1、問2についてはほぼ想定通りの正解率であった。おもりの平均の速さに関する問題は初見だったかもしれないが、想定以上にできている印象をもった。
	問2	92%	98%		
	問3	79%	87%		
	問4	75%	79%		
	問5	67%	82%		
	問6	81%	93%		

● 2020年度 中学入試 グローバル方式 英語 設問別得点率 ※グローバル方式の算数の分析は第2回入試と合わせて掲載(P.28)

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	86%	94%	会話文中の空欄に入る適切な動詞を選ぶ問題。基本動詞等の語彙力を問う。もし必要があれば、文脈に合わせて正しい形に直さなければならない。したがって、不規則変化動詞の知識も必要とされる。	全体的に正答率は高かった。基本動詞については、習熟度のかなり高い受験生が本試験に挑戦しているようである。ただ、語形変化となると多少苦慮している傾向が見られる。特に、不規則動詞の変化には注意が必要である。
	問2	100%	100%		
	問3	84%	88%		
	問4	78%	81%		
	問5	70%	88%		
	問6	30%	44%		
	問7	51%	69%		
	問8	97%	100%		
	問9	95%	94%		
	問10	11%	13%		
2	問1	95%	100%	単語、熟語、文法の知識を統合し、文脈に合わせて適切な英文を完成させる能力を問う。各問とも5語を並べ替えた上で、2番目と4番目の組み合わせを解答する。単なる知識の寄せ集めでは対応できない。英作文につながる力の有無を確認する問題。	英検準2級レベルを意識した問題が多く含まれる中で、非常によく対応できているようであった。群動詞、熟語などの知識も定着しているようであり、特に合格者の平均正答率は96%を越えている。合格者に対しては、今後の活躍が大いに期待される。
	問2	89%	88%		
	問3	97%	100%		
	問4	97%	100%		
	問5	100%	100%		
	問6	81%	81%		
	問7	65%	94%		
	問8	97%	100%		
	問9	97%	100%		
	問10	95%	100%		
3		84%	88%	メール形式の長文問題である。3段落校正でそれぞれ内容を問う問題である。筆者と話し中の人物との関連や起こった出来事などを時系列順に思考できるかなどを問うた。設問に対しては、特にだれがいつどこでどうしたかをきちんと把握する必要がある。回答は番号で答えさせる形式で上記内容が分かっているかどうかを回答へのカギとなっている。該当しないものに関しては平易な内容でまとめた。	正答率は例年通り比較的高い結果となった。選択形式の回答以外の選択肢も難解なものとならなかったことが関わっている。内容において、行為者と時間との相関関係が捉えにくい点で正答まで到達できなかった生徒が少しいたが、英検準2級レベルとしてはほぼ的確であった。
4	問1	78%	100%	本問はやや長めの長文を早く・正確に読み取れる総合問題。そのために具体的には、基本的な文法力は身につけている前提で、論の展開から、「次の空欄にはこの語が入るべき」というように「推測する力」を測ることに力点を置いた問題とした。	概ね出題者の狙い通りの結果となったが、問3からも分るとおり、もう少し単語レベルを上げたいところである。多くの受験生は文法力ではなく単語力の問題で失点していると思われる。ここで使用した単語はいずれも英検準2級レベルの単語なので、市販の単語集などを使って単語力を強化して欲しい。
	問2 (オ)	43%	56%		
	問2 (キ)	49%	69%		
	問3	3%	6%		
	問4 (オ)	68%	94%		
	問4 (カ)	46%	69%		
5	問1	46%	65%	長めの英文を読み、日本語訳も含めその内容を把握できているかを確認する問題。和訳を出題しているのは、内容を理解しながら適切に日本語に訳せるかを問うためである。和訳では因果関係を理解しているか、また文法を理解して和訳しているかをポイントに置いた。内容理解問題では、段落ごとにきちんと内容をまとめながら読み進めていくことができるかに主眼を置いている。	準2級レベルの問題である。内容的に小学生には馴染みの薄いものであるかと思われるが、得点率の高い問題も多く、十分な実力があると判断することができる。和訳の採点は内容理解を中心に考えて行った。受験生の解答から、訳す際にやや難渋したのではないかと印象があるが、英文の主張や因果関係、話しの流れを正確に把握している様子が感じられた。
	問2 (1)	78%	94%		
	問3 (2)	73%	88%		
	問4 (3)	92%	100%		
	問5 (4)	76%	88%		